

# 平成二十九年十二月の收穫

土屋 博

一「明治時代文範」文學士岡田正美校閱

(大日本圖書株式會社、明治三十四年刊、定價金六拾五錢、四三八頁)

古書價格二千五百圓也。明治三十四年文部省檢定濟の師範學校國語科用教科書。徳富猪一郎の文章、「寸鐵集」より十八篇ほど収録せらるることは注目に價す。「思ふ言ふ行ふ、三者一致する、之を大丈夫と云ふ」と。

二「新選一萬句 全」今井柏浦編

(博文館、明治四十一年刊、定價金四十五錢、五一〇頁)

古書價格五百五十圓也。初版は明治四十年。同じ出版社の「明治一萬句」の續編。編者の今井柏浦曰く、「明治三十八年四月より四十年六月に至る最近三年間の太陽、ほととぎす、寶船、日本、國民其他の新聞雜誌より編者が嗜好に任せ蒐録せし約二十萬句より更に英を拾ひ粹を抜きて壹萬餘句を精選したるものなり」と。子規先生(明治三十五年歿)の七百餘句を含む。「雜煮食ふてよき初夢を忘れけり」など。

三「作家略傳 評釋國民詩集」前陸軍教授四宮憲章輯釋

(光風樓、明治四十二年刊、定價金四十錢、上卷二一九頁、中卷八九頁、下卷八五頁)

古書價格千圓也。題辭は芳川顯正伯爵。自序に曰く、「平安朝より起り明治の今日に至る迄の作家を拾ひ一百八十九人、二百二十二首を得たり。多くは皆國家に史に關係すべき人格を有するの作家にして、即亦一部の詩史たるを失はざらんとす」と。冒頭に配置せらるるは菅原道眞の「九月十三夜」(去年今夜侍清涼)。

四「書翰文講話及文範」芳賀天一・杉谷代水合編

(富山房、大正十一年三十八版、定價金貳圓六拾錢、前篇二七五頁、作文便覽六一頁、後篇六四四頁)

古書價格二百圓也。天金。初版は大正五年。購入するは數回目。乃木希典の寺内閣下あて年始狀より、「新年の御慶目出度申納候。然れば久々御無音に打過候處、實は彈丸と人命と時日の多數を消費しつゝ埒明き不申候爲、唯々苦悶慙愧の外無之候。漸く須將軍も、根氣負けの氣味にて開城致しくれ、當方面の一段落を得候。無智無策の腕力戦は、上に對し下に對し、今更ながら恐縮千萬に候」と。

五「現代名家 明治文粹」玉井廣平編

(富田文陽堂、大正二年刊、定價八十錢、四〇八頁)

古書價格二千圓也。福澤諭吉「國法の貴きを論ず」(政府は國民の名代にて國民の思ふ所に従ひ事を爲すものなり。)より徳富蘆花の「少將軍様へ」(良平は輝く希望に氣も軽く十三回目に津輕海峡を渡つて旭川に歸つた。)まで七十篇を収録す。題字は前文部大臣長谷部純孝。

六「第二青年雄辯集」

(大日本雄辯會、大正四年再版、定價金九拾錢、五五〇頁)

古書價格千五百圓也。たとへば、一高學生奥秋雅則「治者被治者」より、「嘗て新渡戸先生が私達に law-abiding の話をせられた時、かかる例を談られました。先生が米國から英國に赴かれた時である、或タリバプールの市街を散歩して居られた、夕でありますからして、各工場より吐き出す所の職工は、恰

も蜘蛛の子を散す如く四方へ散亂したのである。(以下略)」と。

七「日本名著解題」高須芳次郎著

(誠文堂、昭和三年刊、五四八頁)

古書價格三百圓也。大日本百科全集の一冊。序より、「日本文學の知識、趣味を普及するには、先づ古代から明治に至る迄の各期を代表する傑作、佳篇に關し、その内容を具體的に傳へるのが何より捷徑だと思ふ。さういふ風のもは目下一つも見當らぬので、私は第一にこの缺點を補ひたいと考へ、本書を執筆した」と。

八「現代語譯 松陰・象山名著集」日本思想研究會編

(先進社、昭和七年刊、定價三圓五十錢、四九三頁)

古書價格八百圓也。天金。

吉田松陰集には、武教講録、回顧録、野山文稿、幽室文稿、留魂録、坐獄日録、水陸戰略、文武兩道の修業についての上書、政體論、死生の悟、獄中より妹に與ふるの書、訣別書、幽囚録を收む。佐久間象山集のほかに、淺見綱齋の「靖獻遺言」を含む。

九「日本外史新釋」島田欽一著

(有精堂、昭和十五年八版、定價金貳圓參拾錢、六二七頁)

古書價格二百圓也。初版は昭和十二年。著者曰く、「山陽は十七歳の時日本外史の著述を思ひ立つたが、それは單なる史學者の仕事として思ひ立つたのではない。山陽は武家政治の我が國體に反する事を痛嘆し如何にかして王政の世に還し度いと願つた。その爲には一般の人士に我が國體を明かに知らしめ尊王倒幕の思想を振起せねばならぬ。そして又その爲には國史を叙述してその思想を鼓吹するのが一番好いと考へた。」と。

十「蘇峰文庫 昭和十五年下巻」私家製

(昭和十五年後半に新聞に掲載せられたる蘇峰關聯のスクラップ記事を熱烈なる愛讀者一個人の和綴製本したる他に無き逸品なり。)

古書價格三百圓也。徳富蘇峰の記事の當時いかに愛讀せられたるかを示す証左となるらむ。

十五年七月六日執筆の記事より、「第一回世界大戰に際して、英國と其の植民地との聯絡、交通は、我が日本海軍によりて、之を支持したのではなかつた乎」と。

十一「吉田松陰の研究」廣瀬豊著

(マツノ書店、平成元年復刻、限定五百部のうち第二七三番、定價一萬圓、本文七二五頁)

古書價格八百圓也。函入。昭和十八年版(昭和五年版の正編、昭和七年版の續編を大幅に改訂加筆したる決定版)の復刻。

著者は明治十五年生れ、海軍兵學校、海軍大學卒業、大正十一年より三年間東京帝國大學文學部に派遣せられ教育學專攻。「吉田松陰全集」の編者。昭和三十五年歿。

(平成三十年四月九日受附)